

浦添総合病院

薬剤師臨床研修プログラム

— 研修概要 —

2026 年度版

社会医療法人仁愛会 浦添総合病院 薬剤部

はじめに

浦添総合病院薬剤部では、免許取得直後の薬剤師が、薬剤師として必要な基本的知識・技能・態度を身につけ、急性期医療・救急医療の現場で患者の薬物療法に主体的に関わることができるよう、2年間の臨床研修プログラムを実施します。

本研修では、調剤・注射調剤・医薬品管理・医薬品情報管理・病棟薬剤業務・がん薬物療法・救急集中治療・TDM・チーム医療などを段階的に経験します。研修の到達度は定期的に確認し、指導薬剤師との振り返りとフィードバックを通じて成長を支援します。

本冊子は、研修の理念、2年間の成長イメージ、研修領域、評価・フィードバック、修了判定および研修プログラムの改善体制を示す「研修概要」です。各領域の詳細な評価票・チェックリスト等は、院内運用資料として別途管理します。

目次

- 1 研修プログラム名称
- 2 研修理念・基本方針
- 3 研修の目的・到達目標
- 4 研修対象者・研修期間
- 5 研修プログラム概要
- 6 年間研修スケジュール
- 7 主な研修領域
- 8 研修の管理運営体制
- 9 到達度評価・フィードバック
- 10 未到達項目への対応・再評価
- 11 研修修了判定
- 12 研修プログラムの評価・改善
- 13 研修修了後のキャリア形成
- 14 評価資料等の取り扱い
- 15 研修プログラムの公開
- 16 改訂履歴
- 17 参考資料

1. 研修プログラム名称

浦添総合病院 薬剤師臨床研修プログラム

本プログラムは、免許取得直後の薬剤師を主な対象として、薬剤師として必要な基本的知識・技能・態度を身につけるとともに、急性期医療・救急医療の現場で患者の薬物療法に主体的に関わることのできる薬剤師を育成することを目的とします。

2. 研修理念・基本方針

研修理念

患者を中心に考え、多職種と協働し、安全で質の高い薬物療法を実践できる薬剤師を育成する。

当院では、急性期・救急医療を担う薬剤師としての自覚を持ち、薬剤の知識をもとに、患者に焦点を当てた意思決定を他職種と共同して行える人材育成を重視しています。

基本方針

- 患者の安全を最優先とした薬物療法を実践する。
- 病棟・救急・チーム医療を通じて臨床実践能力を養う。
- 医薬品情報を活用し、科学的根拠に基づく意思決定を行う。
- 地域医療とのつながりを理解し、患者の療養を支える視点を養う。
- 生涯学習・研究活動を通じて継続的に成長する。

3. 研修の目的・到達目標

本研修では、薬剤師としての基本的業務を安全かつ確実に実施できることに加え、患者の状態や治療経過を把握し、薬学的な課題を発見・評価し、必要に応じて多職種へ提案できることを最終的な目標とします。

- 処方監査、調剤、注射調剤、医薬品管理等の基本業務を安全に実施できる。
- 患者情報・検査値・病態等を踏まえて薬物療法を評価できる。
- 持参薬確認、服薬指導、副作用モニタリング、退院支援等を実践できる。
- 多職種と適切に情報共有し、チーム医療へ参画できる。
- 日常業務から生じた疑問を自ら調べ、医薬品情報を臨床へ活用できる。
- プレアボイド、症例検討、学会発表等につながる学習姿勢を身につける。

4. 研修対象者・研修期間

対象	当院に勤務する免許取得直後の薬剤師を主な対象とする。
研修期間	原則 2 年間とする。
研修形式	OJT を中心に、実務指導、座学、自己学習、症例検討、チーム医療への参加等を組み合わせる。
研修調整	研修の進捗状況や到達度に応じ、研修内容や研修期間を調整することがある。

5. 研修プログラム概要

2年間で「基礎」から「臨床実践」へ

1年目

「知る・学ぶ・できるようになる」

薬剤師として安全に業務を行うための基礎臨床能力を身につける期間。調剤・注射を基盤に、持参薬、抗がん剤・TPN、DI、病棟、救急・集中治療へ段階的に研修領域を広げます。

2年目

「考える・提案する・実践する」

1年目に修得した知識・技能を患者の薬物療法へ活かす臨床実践の期間。病棟を中心に、救急・集中治療、TDM、感染、栄養、がん等へ発展し、多職種と協働して治療へ関与します。

2年間の成長イメージ

領域	1年目 基礎を身につける	2年目 臨床で実践する
研修テーマ	知る・学ぶ・できるようになる	考える・提案する・実践する
調剤・注射	処方監査、調剤、鑑査、疑義照会等の基本を修得	患者背景を踏まえて処方内容の評価
病棟	持参薬確認、服薬指導等を段階的に経験	担当患者の薬物療法を継続的に評価
がん薬物療法	抗がん剤調製、レジメン等の基本を学ぶ	治療効果・副作用を踏まえ薬学的管理を行う
救急・集中治療	業務を見学し、一部業務を経験	クリティカル担当薬剤師として実践
TDM・感染	基礎知識と考え方を身につける	病態・検査値を踏まえ投与設計や提案へ
チーム医療	多職種連携を経験	カンファレンス・ラウンドで薬剤師として参画
医薬品情報	必要な情報を検索・評価	患者個別の問題解決へ情報を活用
医療安全	安全な業務手順を身につける	プレアボイド等を通じ患者安全へ貢献
学術・教育	日常の疑問を調べる習慣を身につける	症例・経験をまとめ、共有・発信
目指す姿	安全に薬剤師業務を遂行できる	患者をみて、自ら考え、多職種へ提案できる

研修は「業務を覚える」ことに留まらず、2年間を通じて「患者をみて、自ら考え、多職種と協働して薬物療法を実践する」ことへ段階的に発展します。

6. 年間研修スケジュール

研修は、各年度に策定する年間研修計画に基づき実施します。1年目は中央業務を中心とした基礎研修から開始し、習熟度を確認しながら病棟・専門領域へ研修を広げます。2年目は病棟薬剤業務を中心に、救急・集中治療、TDM、チーム医療等の実践的研修を行います。

年間研修計画には、各研修部署・領域だけでなく、到達度評価、面談・フィードバック、研修委員会による確認等を組み込み、研修の進捗を継続的に確認します。

※詳細な年間研修スケジュールは、年度ごとの研修計画により定めます。

7. 主な研修領域

調剤・注射業務

処方内容、用法・用量、相互作用、禁忌等を確認し、安全な薬物療法を支えるための処方監査、調剤、鑑査、疑義照会等の基本的技能を修得します。注射薬では、投与量、投与速度、配合変化、投与経路等を確認します。

医薬品管理・医薬品情報

麻薬、毒薬、向精神薬含む医薬品の適正な保管・管理、供給管理、医薬品情報の検索・評価・提供を学び、必要な情報を臨床上の意思決定へ活用する能力を養います。

がん薬物療法・無菌調製

抗がん剤、TPN等の無菌調製を経験するとともに、レジメン、投与量、支持療法、副作用対策等について学びます。

病棟薬剤業務

入院時の持参薬確認、処方内容の評価、服薬指導、副作用モニタリング、治療効果確認、退院支援等を通じ、患者の薬物療法へ継続的に関与する能力を養います。また手術前後の周術期管理に関しても、実践を通して研修します。

救急・集中治療

救急・集中治療領域における薬剤師の役割を理解し、急性期患者の病態変化を把握しながら薬学的管理を行います。多職種連携、感染管理、栄養管理等も重要な研修項目とします。

TDM・感染症治療

腎機能・肝機能等の患者背景や検査値を評価し、薬物動態・薬力学を踏まえた薬物療法を学びます。抗菌薬選択やTDMを通じて患者個々に応じた投与方法を検討します。

チーム医療

カンファレンス、ラウンド等を通じて多職種との情報共有・意思決定を経験し、薬剤師として必要な情報を整理してチームへ提案する能力を養います。

医療安全・プレアボイド

日常業務の中から薬物療法上のリスクを発見し、重大な有害事象を未然に防ぐための薬学的介入について学びます。

8. 研修の管理運営体制

本研修は、浦添総合病院薬剤師臨床研修委員会の管理のもと実施します。委員会は、本研修プログラムの基本方針、年間研修計画、研修実施体制、研修薬剤師の進捗・到達度、フィードバック、修了判定、研修環境および研修プログラムの改善等について審議・評価します。



委員会には、研修責任者、研修管理薬剤師、内科系医師、外科系医師等が参画し、医学、薬学教育および臨床実践の観点から研修を評価します。委員会は原則として年度開始時・中間・年度終了時の年 3 回開催します。

9. 到達度評価・フィードバック

研修では、研修薬剤師の理解度および修得状況を定期的に評価します。評価は、各研修領域で定める到達目標に基づき、研修薬剤師による自己評価および指導薬剤師による評価を基本として行います。

評価結果は研修薬剤師へフィードバックし、「できていること」と「今後修得すべきこと」を共有します。研修領域に応じて評価シート、チェックリスト、理解度確認等を組み合わせ、研修の進捗を可視化します。

10. 未到達項目への対応・再評価

到達目標に達していない項目が認められた場合は、その要因を研修薬剤師と指導薬剤師が共有し、必要に応じて追加指導、再研修、重点的な OJT、自己学習等を行います。その後、到達状況を再評価します。

評価は研修薬剤師を選別するためではなく、成長に必要な課題を明確にし、次の行動へつなげるために行います。

11. 研修修了判定

研修修了時には、各研修領域における到達度、研修実施状況、指導薬剤師による評価等を総合的に確認します。研修責任者は評価結果を取りまとめ、薬剤師臨床研修委員会へ報告します。

委員会では、研修薬剤師が本プログラムで求める知識・技能・態度を修得しているかを総合的に評価し、研修修了について審議します。

12. 研修プログラムの評価・改善

本研修プログラムは、研修薬剤師だけを評価するものではありません。研修実施状況、到達度、研修薬剤師および指導薬剤師からの意見、研修環境、指導体制等について定期的に評価し、必要な改善を行います。

年度開始時	中間	年度終了時
研修計画・年間計画・指導体制を確認	進捗・到達状況の評価し、課題と改善策を検討	修了状況・プログラム・指導体制を総合評価し、次年度へ反映

評価結果は次年度の研修プログラムへ反映し、研修の質を継続的に向上させます。

13. 研修修了後のキャリア形成

2年間の新人臨床研修は、薬剤師としてのキャリアの完成ではなく、その後の成長の土台と位置づけます。研修修了後は、本人の興味・適性・キャリア形成を踏まえ、各専門領域への発展を目指します。

キャリア領域	主な発展イメージ
がん	がん薬物療法、外来・病棟での専門的実践
感染	ICT・AST、抗菌薬適正使用、TDM
救急・集中治療	救急外来・ICUでの薬学的管理
栄養・周術期	NST、栄養療法、周術期薬剤管理
医療安全	ブレアボイド、医薬品安全管理
学術・教育	臨床研究、学会発表、後輩指導

14. 評価資料等の取り扱い

具体的な評価には、各研修領域で定める到達度評価票、チェックリスト、理解度確認資料等を用います。これらは研修プログラムを運用するための資料として別途管理し、研修内容や医療環境の変化に応じて適宜見直します。

評価、フィードバック、再評価および研修修了判定に関する記録は、研修の実施状況が確認できるよう適切に管理します。

15. 研修プログラムの公開

本研修概要は、浦添総合病院薬剤部における新人薬剤師臨床研修の基本方針、研修内容、評価体制等を示すものとして、浦添総合病院ホームページに公開します。研修内容等に変更が生じた場合は、薬剤師臨床研修委員会で審議のうえ必要な改訂を行います。

16. 改訂履歴

初版 2026 年 6 月新規作成

17. 参考資料

- ・医療機関における新人薬剤師の研修プログラムの基本的考え方（一般社団法人日本病院薬剤師会）
- ・薬剤師の卒後研修カリキュラムの調査研究（令和3年度厚生労働科学研究費補助金健康安全確保総合研究分野医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究）